

指定管理者評価シート

様式

事業名	札幌市自閉者自立支援センターゆい運営管理費	所管課(電話番号)	保)保健福祉部障がい福祉課(211-2938)
-----	-----------------------	-----------	-------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市自閉症者自立支援センターゆい	所在地	札幌市東区東雁来12条4丁目1番5号
開設時期	平成17年11月1日	延床面積	3,280.55㎡
目的	激しい行動障がい等を有する自閉症者(児)及びその家族に対する入所、通所による支援を提供し、その自立を目指す。		
事業概要	知的障害者施設入所支援 生活介護事業 自立訓練事業 自閉症・発達障がい支援センターの運営		
主要施設	知的障害者施設入所支援(入所30名短期入所6名) 生活介護事業(44名) 自立訓練事業(6名) 体育館 作業館 自閉症・発達障がい支援センターおがる 交流スペース		
2 指定管理者			
名称	社会福祉法人はるにれの里		
指定期間	平成29年4月1日～平成33年3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由:管理期間中の管理が良好であると認められたことから、札幌市福祉施設条例第13号第2項及び札幌市自閉症・発達支援障害支援センター条例第6条第2号の規定に基づき非公募とした。		
指定単位	施設数:2 複数施設を一括指定の場合、その理由:共通の目標の下、それぞれ支援を行うなど、極めて関連性の深い業務を行っており、また、一体の施設(建築物)であり、施設の維持管理等に関する業務を統括して行うことで業務の効率化が図られるため。		
業務の範囲	施設維持管理業務、施設事業計画及び実施業務、施設利用承認等業務		
3 評価単位	施設数:2 複数施設を一括評価の場合、その理由:共通の目標の下、それぞれ支援を行うなど、極めて関連性の深い業務を行っており、また、一体の施設(建築物)であり施設の維持管理等に関する業務を統括して行っているため。		

II 平成29年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価								
1 業務の要求水準達成度											
(1)統括管理業務	▼ 管理運営に係る基本方針の策定 ▼ 法人理念のひとつである「重たい障がいがあっても地域の中で自分らしく生活を送ることができるよう事業運営する」ということを全職員が念頭に置き、個別支援計画に基づきながら「地域の暮らし」の実現に向かうという基本方針は今後も揺らぐことはない。 ▼ 平成29年度は、当センター(以下、ゆい)にとって、札幌市の指定管理者業務4期目(平成29年4月1日～平成33年3月31日)のスタートという年であった。時代の流れは変わるが、ゆいの最も大きな使命は、利用者が地域の生活に戻れるためのさまざまな取り組みを続けることである。	○ゆいがその使命に向かって進むキーワードとして「最前線と最高峰をめざして」を掲げ、そのために「支援力を上げる」「組織力を高める」「人間力を磨く」という3つの観点からの取り組みを進めてきた。共通言語を持つことがひとつの事業体としての方向を維持する上で有効だと思うからである。この方針は職員にも伝わっていると考えている。 ○平成29年度においては、在宅の通所利用者が新たにグループホームへ移行されたため、通所利用者1名を新規に受け入れた。そのため再び空きのない現状ではあるが、利用希望者には見学や面談の場を設定し、そうした現状も含めて丁寧にお伝えしているつもりである。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 25%;">A</th> <th style="width: 25%;">B</th> <th style="width: 25%;">C</th> <th style="width: 25%;">D</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">●</td> <td style="text-align: center;">●</td> <td style="text-align: center;">●</td> <td style="text-align: center;">●</td> </tr> </table>	A	B	C	D	●	●	●	●
	A		B	C	D						
●	●	●	●								
▼ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 ▼ 新規入所及び通所利用者に関しては、本人の状況や家庭状況、緊急性等のニーズを踏まえて、関係者会議を実施し決定することとなっている。平成29年度は新規入所利用者の受け入れはなかったが、通所利用者1名を新規に受け入れている。 ▼ 短期入所・日中一時支援においても、本人・ご家族の緊急的な利用や保護者のレスパイトとしての活用など、児童と成人の利用調整等に配慮しながらより多くの方が利用できるようにしている。											

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

▼ガスの使用に関しては従来通り、冷暖房の空調やパネルヒーターで使用する冷温水を各所へ送るプログラム操作の一括管理を行うことでファンやポンプ系の稼動減・ボイラーの稼動減を推進し省エネに努めた。また、年間通してフラットな使用量により割安になるプランでガスの利用契約をしていたが、平成28年度から季節に応じた使用を前提とした契約に変更している。利用料が割高になるかもしれないという危惧もあったが、節約できる箇所は節約するという取り組みもありガス使用量は28年度比で5%減で想定以上の使用量に抑えることができた。水道に関しては従来どおり、各所の蛇口に節水コマを導入して節水に努めている。

▼ガソリン・軽油の使用に関しては送迎業務の効率化を図るよう努力を続けているが、利用者さんの作業量が増えたことにより運搬に伴う軽油の使用量が増えた。

▼各エネルギー・資源の節約に関しては、各所の節電(既に電球・蛍光灯の間引きは実施済)・廃棄物の減量・リサイクル(「裏紙の再利用」「ダンボール・ペットボトル・缶をリサイクル業者へ搬出」等)に努めた。

▼電力小売りの自由化に伴う、費用の節減について、本施設に適したプランを検討していきたい。

○平成29年度は前年度比では、ガスは5%減、ガソリンは2%減、軽油は26%増、水道は6%減、電気は不変であった。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

▼入所のABCブロックにおいては、夜勤体制があるため、全員が集まるのが難しい。ABCブロックだけでなく生活介護も含めて、月に2回管理職も加わったケースカンファを定例化するよう、日程の工夫に努めた。また、不適応行動の出現に対しては、短くてOK・早めに開催・継続することを常に心掛けてケースカンファを開くようにしている。こうしたケースカンファは相当数開催しており、できるだけ早めに対策を講じ実行していく流れができてきている。

▼新人職員と先輩職員がコンビとなってフォローしていくバディ制度を平成27年度から開始している。平成29年度はバディ期間を6か月とした。月に2回ある運営カンファレンスで、後輩バディの状況を確認しながら、9月に先輩バディミーティングを開催し、それぞれの先輩バディの工夫を話した。適切なサポートができていたと感じている。

▼スタッフの負担を減らすだけでなく、新たな人材発掘にもつながるような期待も込めて、パートの増員を図った。昨年度に引き続き野菜館に主婦パート2名を雇用し、他に学生パートを8名導入した。内1名が平成30年度の職員採用につながっている。業務の再整理やスタッフへの刺激にもとてもいい成果があった。

○左にあげたことは「組織力を高める」というキーワードで全職員に説明している。運営カンファレンスは各リーダーの運営参加意識をさらに高める場であり、リーダー・サブリーダー会議も各チームで時間を見つけて行われている。

○サブリーダーの意見交換会的なミーティングも年2回開催することができた。リーダーを交えず、サブリーダーのみの集まりにしている。他チームでのサブリーダーの動きについてお互いを知る機会となった。

○作業委員会・生活健康委員会・人権委員会・余暇委員会・個別支援計画検討委員会の委員長ミーティングも2回開催し、各委員会がゆいの中でどのような役割を担っているのかを再確認する場とした。

○まだまだ未熟で力不足な組織ではあるが、何とかしようとするチームであり、人を育てようとするチームではあると思っている。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼3～4ヶ月ほどで達成可能と思われる実践テーマをABC各ブロックと生活介護の4チームで設定し、チーム支援として取り組んできた。さらに、困難性の高い支援を要する利用者については、自閉症・発達障がい支援センターおがるとのコラボケースと位置付けて取り組みを進めた。チーム支援が浸透し、各チームの取り組みにより進化が見られている。

▼法人内研修とは別に、ゆい独自の研修の場としてゆい塾を年4回開講した。同じ内容の講座を複数回開催し、すべての職員が参加できるようにした。

▼おがる実践報告報告会、北摂杉の子会様や横浜やまびこの里様とのコラボセミナー、ホームページへの寄稿など、自分たちの実践を報告する場を多数設けてきた。

▼外部研修にも可能な限り職員を派遣し、それぞれのスキルアップやチームへの還元を意図した。また、法人内事業所への研修派遣も実施し、外部研修と合わせ、「全員が何かの研修に参加する」ことが実現できた。

▼社会人としての成長を促すために、平成29年度は「あいさつの声を1.5倍にしよう」「提出物の期日は厳守しよう」「一日一回はだれかにありがとうを伝える」を重点目標とした。じわじわ浸透するものであり、継続は力だと感じる。

▼【月曜日～交通安全、火曜日～あいさつ、水曜日～人権、木曜日～清掃・整理整頓、金曜日～エコ】と、朝の打ち合わせ時に確認したり週案表に記載したりして意識づけを図った。

▼人権への取り組みとして、平成29年度は感覚をマヒさせないことを第一に、人権チェックリストの再実施やMVP職員の表彰、パソコンのスクリーンセーバーを活用した啓発などに取り組んだ。

▼ゆいは何を大事にしていくべきなのか、その前段にある、もっと根源的なもの(人として・職業人として・組織人としてetc.)を明確にしたいと思い、スタッフに「大事にしたいことアンケート調査」を実施した。それらの思いを包含するキーワードをまとめたものがゆいバリューである。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼厨房委託及び清掃業務については、窓口担当職員を決め、日々の現場での作業の確認を行っている。

▼受託先の管理者や指導職とのやりとりは年間を通じて定期的に行われている。担当管理者とは、業務内容の改善の要望や業務の遂行状況について、電話連絡等をし、その都度「情報共有」をするよう努めている。また、必要に応じて、即座に対応してもらえるように、担当管理者に現場を見てもらおうよう、依頼することもある。

▼業務の範囲や場所、委託料や契約期間等は、契約時に協議し契約書を交わしている(清掃・厨房いずれも、平成33年3月31日までの契約期間となっている)。また、業務完了届については業務内容に応じて書類提出を委託先が行っているが、双方が確認の必要な事項については、書類を整備し確認した上で押印を行っている。

○左にあげたことは「支援力を上げる」というキーワードで全職員に伝えている。各チーム年間で3つのテーマに取り組むことができ、チームで考える意識が高まっている。それぞれの取り組みを交流するために、職場内スレッドを活用したり事務所内の掲示コーナーでの報告をしたりしている。

○ゆい塾に関しては、「特性を拾い出す練習(5月)」「グループホームの実践から学ぶ(8月)」「コミュニケーション概論(11月)」「素朴な疑問(2月)」の4回を開講することができた。

○法人内でもさまざまな研修がゆいを会場に行われており、ゆいの職員研修は質量ともに全国でもトップレベルの自負を持っている。

○左にあげたことは「人間力を上げる」というキーワードで全職員に伝えている。意識するだけでも多少の効果はあったように思うし、意識しつづけるための地道な取り組みが必要なことである。

○社会人として職業人としての成熟については、まだまだこれからだと思っている。ゆいの中で大切にしていきたいことについては平成29年度にゆいバリューとしてまとめた。平成30年度からは、このゆいバリューをキーワードにしながら事業計画を立案遂行していこうと考えている。

○業務は常に視界に入るところで行われており透明性が一定程度維持されている。また、関係資料の提出が毎月定期的に行われているので、現状との相違や虚偽がないかを実際の業務状況と比較確認を行っている。

○常に連絡調整が円滑にできるような関係が構築されている。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 平成30年 3月3日	1. 平成29年度運営状況報告 2. 平成29年度事業報告 3. 平成30年度の展望 4. 意見交換 以上の件について、報告・助言いただいた。
<協議会メンバー> 札幌市保健福祉部障がい福祉課運営指導係 係長 /札幌市児童心療センター所長/北海道自閉症協会 副会長/札幌市東区東雁来連合町内会 会長/ 特別養護老人ホームひかりの 施設長/(有限)カ ラーズ 代表/(社福)はるにれの里 理事長/事務 局(所長・事務長・総務課長・業務課長・主任)	

○メンバーをできるだけ絞り込み、意見交換がしやすい会になるようにしている。

札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるにおいては、平成30年2月23日に連絡協議会を開催し、平成29年度の取り組みについての報告と、次年度の展望についての意見交換を行っている。参加者は、札幌市ピアサポーター、発達障がいネットワーク北海道、札幌市基幹相談支援センターワンオール、札幌市自立支援協議会(各専門部会)、札幌市精神保健福祉センター、子ども発達支援総合センター、札幌市教育センター、札幌市教育委員会、札幌市知的障がい者更生相談所まあち、札幌市児童相談所、札幌市子ども未来局、ハローワーク札幌、北海道障害者職業センター、北海道警察本部生活安全部少年課、札幌弁護士会、札幌市障がい福祉課の方々であった。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

▼資金管理については、「施設入所・生活介護会計」・「発達会計」の2会計による拠点区分間経理を行っている。また、監事監査による「内部監査」に加え、会計事務所による「外部監査」も受けている。
 ▼施設の現金等の取扱いについては、「法人経理規定」に、利用者小遣いについては、「親和会規定(親の会)」に基づき処理している。親和会は、年2回の監査を受けている。
 ▼平成27年度から、新「社会福祉法人会計基準」に移行している。平成29年度も、新会計基準により適した「財務ソフト」にバージョン・アップし、固定資産管理(減価償却費計算)や各種「付属明細」を法人自らで出力できるようにしている。

○資金管理については、規定に従い厳正処理している。ゆい・おがるに関しては、外部の会計事務所のコンサルの指導に基づき、また、「親和会」については、保護者監査、職員複数名により精査を行っている。現金及び通帳、印鑑の管理についても、複数が関与しなければ取り扱えないシステムとし、不正防止に努めている。

▽ 要望・苦情対応

▼第三者委員として利用者相談員を3名(外部)を委任している。年1回委員会を開催し、要望・苦情等に関して報告し、助言指導をいただいている。また、委員の方には施設内も見えていただき、処遇向上のための貴重な意見をいただく機会としている。
 ▼利用者やそのご家族からの要望に関しては、年3回、個別支援計画をもとにした個別懇談会を実施し、支援の内容等も家族とともに確認しながら行っている。

○平成29年度は苦情はあげられていないが、懇談等で保護者の方から寄せられた不安や心配な点について、実際にどのようなやりとりを行ってその解決を図ったのかをお伝えし、保護者の方とのやりとりの在り方について第三者委員の方に助言をいただいている。

	<p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施) ▼札幌市への月次報告を行っている。また、実地指導を年1回受け、業務の改善について逐次助言を受けられるようにしている。</p>										
<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上 ▼職員には、年間公休日105日以上を保証している。 ▼勤務シフトの作成にあたっては本人の休日希望を優先しており、連続した休日の希望についてもできる限り応えるようにしている。 ▼職員に対しては、時間外労働や夜勤業務を行った場合、それぞれ法定割合以上の割増賃金を支払っている。 ▼パート職員の時給は、最低賃金810円(平成29年10月1日発効)を上回る900円の時給を支給している。 ▼年に1回定期健康診断を実施している。深夜業に従事する労働者には、6か月に1回の定期健康診断を実施した。 ▼産休や育休に入る女性職員が毎年数名いるが、妊娠がわかった時点で、勤務に無理がかからないように配置等の変更をすぐに行うようにしている。また、子育て中の職員に対しても、可能な限り配置上の配慮を行っている。 ▼利用できる休暇制度などをまとめたものを職場内に何か所か置いてあり、それぞれの職員がいつでも確認できるようにしている。 ▼セクハラやパワハラに対する相談窓口がある。 ▼メンタルヘルスについてのチェックや講座を職場内で行っている。 ▼嘱託職員から正職員への登用試験を実施しているが、その結果、嘱託職員1名を正職員に転換することができた。 ▼休憩スペースを建物内に設け、飲み物やお菓子などを置いている。</p>	<p>○若い職員が多いこともあるかと思うが、産休や育休を取得する職員が毎年数名いるということは、少なくとも取りにくい雰囲気にはないと言えるだろう。 ○職員数に余裕があるわけではないが休日希望に配慮していることや、常に見守りを必要とする利用者への支援が業務ではあるが休憩時間の確保にも努めていることは、まだまだ努力の余地があるとは言え、職員も理解してくれているように思う。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> ・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。 </td> </tr> </table>	A	B	C	D	・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。			
A	B	C	D								
・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。											
<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入) ▼緊急時の対応マニュアル(火事・震災・衛生・感染・入浴・事故など)を整備し、スタッフミーティング等で職員の啓発を常に行っている。また、深夜火災への対応シミュレーションは重点的に実施している。 ▼河川の氾濫に備えての水防計画を作成し、職員による避難シミュレーションとそれに基づいた利用者訓練を実施した。 ▼相模原市の施設での事件を受け、不審者侵入時の対策についても整備を進めている。1)正面玄関を人が通るとセンサーが事務室内で作動する 2)入所棟・通所棟への入口は外側からはカギがなければ入れないようにしている 3)建物裏に監視カメラを設置し事務室にモニターを置く の3点を整えた。 ▼利用者による建物への破壊行為等物損に関しては、損害保険加入を各個人にお願いをし、対応している。</p>		<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> ・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。 </td> </tr> </table>	A	B	C	D	・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。			
A	B	C	D								
・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。											

	<p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <p>▼館内の清掃は外部業者に委託し行っているが、生活区域については、職員による清掃を行い、日常的に衛生的な環境を維持するよう努めている。また、管理者は、朝夕の打ち合わせ時に啓発している。</p> <p>▼平成29年度の主な整備箇所としては、外部からの侵入者対策として防犯カメラ、玄関周辺の電子錠追加工事を実施。利用者さんの生活環境としては主に1号館を中心に拘り行動の強い利用者さんの影響を低減する目的で可動式のパーテーションを追加。日中活動エリアの有効活用を目的とした作業館の改装を行った。</p> <p>▼以前、地盤沈下の影響を受けて入れ替え工事を行った電気ケーブルと同様に、施設内に引き込まれている水道管・ガス管・電話線・インターネット回線への影響が懸念される。</p> <p>▼今期もマイクロコージェネ、厨房エアコン(ガスヒートポンプエアコン)、電子窓、貫流ボイラー、業務用大型洗濯機、厨房冷蔵庫等、故障頻度が多い機器があった。また、冷却水ポンプ・冷温水ポンプ系統も劣化が進んでおり、点検業者からも修繕を勧められていることから、今後も引き続き札幌市への報告と協議を進めていきたい。</p> <p>▽ 防災</p> <p>▼今年度も例年通り利用者避難を中心とした訓練、防災設備のしくみ・少ない人数で避難する場合の職員間の連携事項などを確認し、防災への意識を高められるよう努めた。</p> <p>▼前年度実施された査察において整備された環境を維持するよう努めている。</p> <p>▼法改正に伴い義務化された水防計画を暫定的に策定し、その経緯や周辺地域のハザードマップ・豊平川氾濫の警戒水位や避難ルート・役割分担の確認等を行い、訓練を2月に行った。</p> <p>▼識別しにくかった火災地区表示盤の各エリアの表記を変更し、即座に出火場所がわかるように改めた。</p>	<p>○設備管理担当者を配置し、施設内の修繕箇所に関して常にチェックできるようにしている。開設から12年が経過しており、経年劣化箇所がかなり目立ち始めてきていることや、地盤沈下の影響も踏まえた長期的な修繕計画が必要になっている。札幌市とも協議を重ねていきたい。</p> <p>○災害時に利用者や職員だけではなく、地域の方々の避難所としても機能するため、非常食90食×3日分のストックを整備した。毎年1回、在庫確認を行うようにしている。</p>									
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽ 自閉症・発達障がいに関する学習機会の提供業務</p> <p>▼札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるでは、平成29年度実績で、主催または共催研修46回(1350人)・講師派遣214回(7005人)を実施している。</p> <p>▽ 自閉症・発達障がいに関する情報収集及び提供業務</p> <p>▼札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるでは、ホームページ等で自閉症や発達障がいに関する情報や他機関主催の研修会情報などを随時お知らせしている。</p> <p>▼札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるでは、世界自閉症啓発イベントに協力している。平成29年度は新さっぽろサンピアザ光の広場にて、多くの方に啓発することができた。また、秋にはカラフルブレインアートフェスタを開催しているが、毎年協力させていただいている。</p> <p>▽ 自閉症や発達障がいに関する相談業務</p> <p>▼札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがるでは、ご本人・ご家族・支援者の方々への相談支援、発達支援、就労支援、機関コンサルテーションなどを行っている。その件数については、(5)の項で示す。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> ・自閉症者自立支援センターにおける激しい行動障がいや有する自閉症者の地域移行への取組のほか、自閉症・発達障害支援センターにおける当事者の家族、支援者等への支援を目的とした研修やホームページ等により、自閉症・発達障がいに対する情報等の普及啓発活動を実施している点が特に高く評価できる。 </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	・自閉症者自立支援センターにおける激しい行動障がいや有する自閉症者の地域移行への取組のほか、自閉症・発達障害支援センターにおける当事者の家族、支援者等への支援を目的とした研修やホームページ等により、自閉症・発達障がいに対する情報等の普及啓発活動を実施している点が特に高く評価できる。				
A	B	C	D								
・自閉症者自立支援センターにおける激しい行動障がいや有する自閉症者の地域移行への取組のほか、自閉症・発達障害支援センターにおける当事者の家族、支援者等への支援を目的とした研修やホームページ等により、自閉症・発達障がいに対する情報等の普及啓発活動を実施している点が特に高く評価できる。											

(5)施設利用に関する業務	<p>▽ 利用件数等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H28実績</th> <th>H29計画</th> <th>H29実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">入所</td> <td>利用件数(件)</td> <td>372</td> <td>372</td> <td>372</td> </tr> <tr> <td>延べ利用日数(日)</td> <td>11,091</td> <td>11,208</td> <td>11,036</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>101.3%</td> <td>102.4%</td> <td>100.8%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">短期入所</td> <td>利用件数(件)</td> <td>195</td> <td>156</td> <td>162</td> </tr> <tr> <td>延べ利用日数(日)</td> <td>688</td> <td>552</td> <td>573</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>31.4%</td> <td>25.2%</td> <td>26.2%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">デイ(生活・訓練)</td> <td>利用件数(件)</td> <td>599</td> <td>600</td> <td>595</td> </tr> <tr> <td>延べ利用日数(日)</td> <td>12,727</td> <td>12,804</td> <td>12,640</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>107.5%</td> <td>108.2%</td> <td>106.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>▽ 利用件数等(自閉症・発達障がい支援センターおがる)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H28実績</th> <th>H29計画</th> <th>H29実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">相談支援</td> <td>件数(件)</td> <td>901</td> <td>900</td> <td>1114</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>612</td> <td>500</td> <td>680</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">発達支援</td> <td>件数(件)</td> <td>40</td> <td>30</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>16</td> <td>5</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">就労支援</td> <td>件数(件)</td> <td>101</td> <td>75</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>人数(人)</td> <td>33</td> <td>15</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">機関コンサル</td> <td>件数(件)</td> <td>1202</td> <td>1000</td> <td>1614</td> </tr> <tr> <td>箇所数</td> <td>113</td> <td>90</td> <td>123</td> </tr> <tr> <td>個別調整会議</td> <td>回数</td> <td>145</td> <td>120</td> <td>147</td> </tr> </tbody> </table> <p>▽ 利用促進の取組</p> <p>研修会の企画、発表、見学者への事業説明等、さまざまな機会を通して、施設の紹介を行っている。</p>			H28実績	H29計画	H29実績	入所	利用件数(件)	372	372	372	延べ利用日数(日)	11,091	11,208	11,036	稼働率(%)	101.3%	102.4%	100.8%	短期入所	利用件数(件)	195	156	162	延べ利用日数(日)	688	552	573	稼働率(%)	31.4%	25.2%	26.2%	デイ(生活・訓練)	利用件数(件)	599	600	595	延べ利用日数(日)	12,727	12,804	12,640	稼働率(%)	107.5%	108.2%	106.8%			H28実績	H29計画	H29実績	相談支援	件数(件)	901	900	1114	人数(人)	612	500	680	発達支援	件数(件)	40	30	61	人数(人)	16	5	9	就労支援	件数(件)	101	75	58	人数(人)	33	15	33	機関コンサル	件数(件)	1202	1000	1614	箇所数	113	90	123	個別調整会議	回数	145	120	147	<p>○入所は30名定員であるが、今期も31名の受け入れを行っている。長期帰省者がいたため、計画数には届かず、前年度実績に比べても、微減となっている。また、生活介護・自立訓練の定員総勢は50名であるが、自立訓練枠(6名)の利用実績は今年もない。ゆい近隣のグループホームから生活介護に通う利用者も多く、生活介護は毎月、ほぼ50名の利用になっている。重度の生活介護利用者と自立訓練の共存は、物理的制約からなかなか難しいものがあるため、当面この利用状況を維持する予定である。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>・自閉症者自立支援センターに関しては、概ね計画通りの事業実績であり評価できる。ただし、短期入所の稼働率が低いことから、稼働率の向上に向けた利用者の受け入れ態勢の検討が必要である。</p> <p>・また、自閉症・発達障害支援センターに関しては、計画を上回る実績となっており、業務の要求水準を十分に達成している。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>・自閉症者自立支援センターに関しては、概ね計画通りの事業実績であり評価できる。ただし、短期入所の稼働率が低いことから、稼働率の向上に向けた利用者の受け入れ態勢の検討が必要である。</p> <p>・また、自閉症・発達障害支援センターに関しては、計画を上回る実績となっており、業務の要求水準を十分に達成している。</p>			
			H28実績	H29計画	H29実績																																																																																																
入所	利用件数(件)	372	372	372																																																																																																	
	延べ利用日数(日)	11,091	11,208	11,036																																																																																																	
	稼働率(%)	101.3%	102.4%	100.8%																																																																																																	
短期入所	利用件数(件)	195	156	162																																																																																																	
	延べ利用日数(日)	688	552	573																																																																																																	
	稼働率(%)	31.4%	25.2%	26.2%																																																																																																	
デイ(生活・訓練)	利用件数(件)	599	600	595																																																																																																	
	延べ利用日数(日)	12,727	12,804	12,640																																																																																																	
	稼働率(%)	107.5%	108.2%	106.8%																																																																																																	
		H28実績	H29計画	H29実績																																																																																																	
相談支援	件数(件)	901	900	1114																																																																																																	
	人数(人)	612	500	680																																																																																																	
発達支援	件数(件)	40	30	61																																																																																																	
	人数(人)	16	5	9																																																																																																	
就労支援	件数(件)	101	75	58																																																																																																	
	人数(人)	33	15	33																																																																																																	
機関コンサル	件数(件)	1202	1000	1614																																																																																																	
	箇所数	113	90	123																																																																																																	
個別調整会議	回数	145	120	147																																																																																																	
A	B	C	D																																																																																																		
<p>・自閉症者自立支援センターに関しては、概ね計画通りの事業実績であり評価できる。ただし、短期入所の稼働率が低いことから、稼働率の向上に向けた利用者の受け入れ態勢の検討が必要である。</p> <p>・また、自閉症・発達障害支援センターに関しては、計画を上回る実績となっており、業務の要求水準を十分に達成している。</p>																																																																																																					
(6)付随業務	<p>▽ 広報業務</p> <p>▼インターネット上で法人ホームページ及び事業所のページを掲載している。http://www.harunire.or.jp/ ゆいのページでは、随時、イベント報告や実践報告等をアップしている。おがるのページではさまざまな研修会情報をお知らせしている。</p> <p>▼当施設への見学者であるが、述べ235名が来所されている。平成29年度においても全国自閉症者施設協議会による発達障がいスーパーバイザー養成研修の受け入れを年2回、他機関からの職員実務研修等の受け入れを行った。札幌市自閉症児支援センターさぼこ様からは、4名の支援者実習を3日間ずつ受け入れた。現職の方々の実習を受け入れることも地域貢献のひとつになるのではないかと考えている。</p> <p>▼5月に東苗穂消防団の方々と共に、地域住民の方々を対象にしたイベントを開催した。自閉症についての啓発や缶バッジ販売を行うことができた。</p> <p>▽ 引継ぎ業務 (前回から継続指定のため、引継業務なし)</p>	<p>○強度行動障がいに伴う重度の自閉症の人たちへの対応は全国的な課題でもあり、見学者からは、どのように支援を行っているのか、さらに地域移行までの展開をどのように取り組んできたのか等への関心が多かった。</p> <p>○そうした研修を含めた見学対応の中で、自分たちが意見や助言をもらう場も意識的に設けるようにした。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>・各種広報媒体を利用した活動は評価できる。</p> <p>・激しい行動障がいを持つ自閉症者の地域移行の実績の高さや取組内容が高く評価され、多くの視察依頼を受けていることから、広報業務は適正になされていると評価できる。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>・各種広報媒体を利用した活動は評価できる。</p> <p>・激しい行動障がいを持つ自閉症者の地域移行の実績の高さや取組内容が高く評価され、多くの視察依頼を受けていることから、広報業務は適正になされていると評価できる。</p>																																																																																													
A	B	C	D																																																																																																		
<p>・各種広報媒体を利用した活動は評価できる。</p> <p>・激しい行動障がいを持つ自閉症者の地域移行の実績の高さや取組内容が高く評価され、多くの視察依頼を受けていることから、広報業務は適正になされていると評価できる。</p>																																																																																																					

2 自主事業その他

▽ 自主事業	A	B	C	D
<p>▼法人内他エリアのグループホームに空き枠が生じていることを受け、その要件に合いそうな利用者の人選と準備を進めてきた。7月に1名の利用者を地域に戻すことができた。</p> <p>▼(仮称)中沼グループホームの建設を想定し、利用者の組み合わせを検討した。4名の利用者の組み合わせと空間シェアの案を策定し、設計に落とし込んでいる段階である。平成30年度末には完成させたい。</p> <p>▼地域生活に戻るチャンスがあればいつでも手を挙げられるようにはしているという自負は持っているので、地域生活のシミュレーションを継続していくというスタンスを維持していきたい。</p>	<p>○ゆいの近隣にあるグループホームよもぎの体験利用であるが、今年度は5名の方に実施することができた(多い方で年間36日)。体制の都合上、月に数回程度の実施に限られてしまうという現状はあるが、スタッフも利用者も確実に地域での生活イメージを持つことができた。</p> <p>○また、日中の時間帯に女性利用者の活用も行うことができた。男性グループホームに女性が宿泊体験することの難しさがあるので、日中帯の活用を今後も取り入れていきたい。</p> <p>体制の都合上、月に1~2回程度の実施に限られてしまうという現状はあるが、スタッフも利用者も確実に地域での生活イメージを持つことができた。</p>	<p>・適正に事業を実施している。</p>		
<p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <p>▼清掃や厨房業務については、平成28年度内に入札を実施し、市内企業と平成33年3月31日までの4年間の契約を行っている。清掃業務については障がい者雇用を推進している企業と契約している。</p> <p>▼利用者の生産活動への参加促進という視点から、東区内の障がい者雇用を促進する野菜の加工業者や札幌市内のリサイクル業者からの下請けを請け負い、利用者に工賃の還元を行っている。</p>	<p>○契約企業との定期的な打合せや、下請けを請け負っている業者への納品時のやりとり等を通じて、良好な関係維持に努めている。</p>			

様式

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

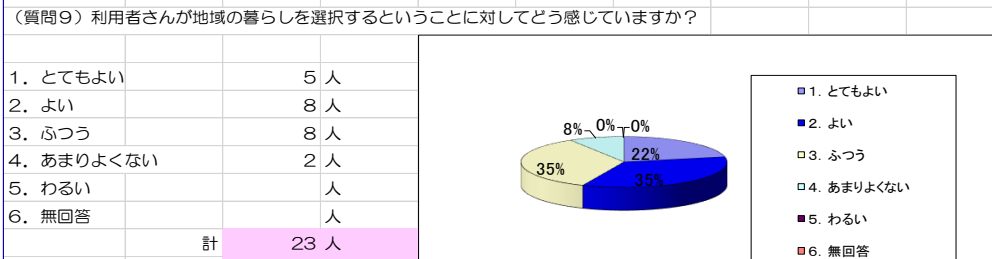
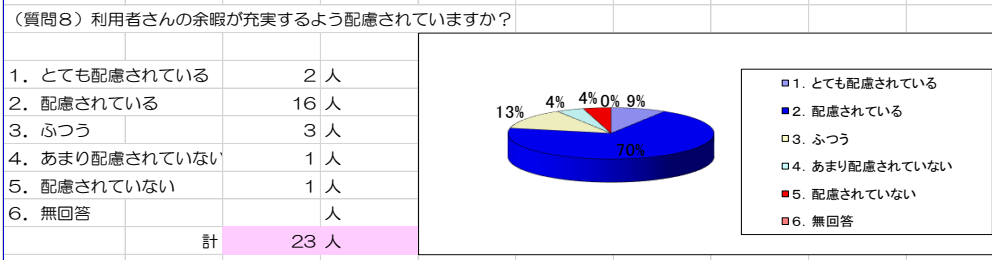
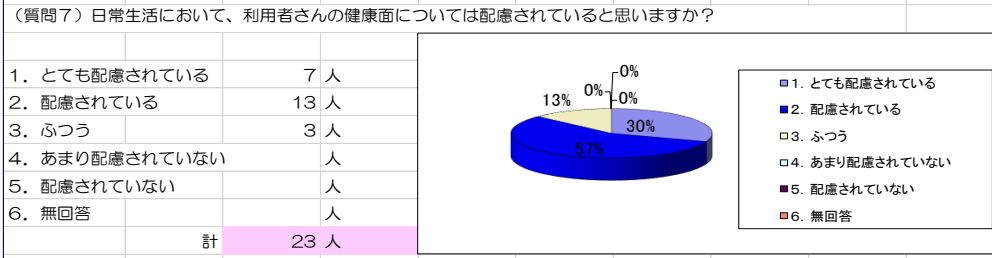
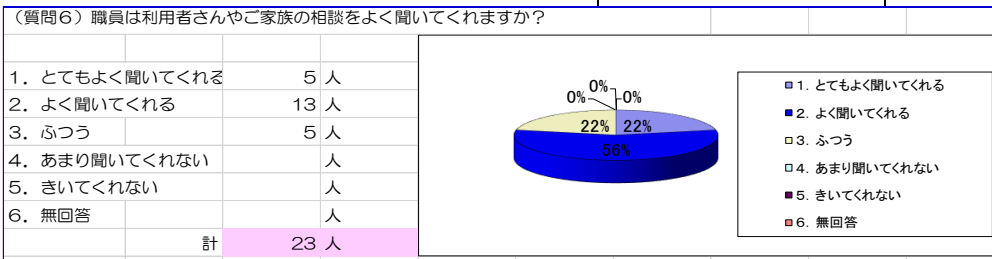
▼平成30年1月に、親和会会員家庭にアンケート調査用紙を郵送した。回答数は23名。

○質問数は9個。「とてもよい」「よい」の割合は85%であった。全職員及び親和会総会にて回答結果を示している。

A	B	C	D
・要求水準を上回る状況であり、評価できる。			

様式

		平成30年3月21日現在	
平成29年度 利用者アンケート			
31人の利用者のご家族に対して以下の項目につきましてアンケートを実施致しました。送付しましたアンケートにお返事をいただきましたのは、23名の方でした。回収率は約74%です。			
(質問1) 当センターを利用して、利用者さん(お子様)の状態像は改善してきたと感じますか?			
1. とても感じる	1人		<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. とても感じる <input type="checkbox"/> 2. 感じる <input type="checkbox"/> 3. 変わらない <input type="checkbox"/> 4. ややわるくなった <input type="checkbox"/> 5. わるくなっている <input type="checkbox"/> 6. 無回答
2. 感じる	19人		
3. 変わらない	3人		
4. ややわるくなった	0人		
5. わるくなっている	0人		
6. 無回答	0人		
計	23人		
(質問2) 当センターの建物の管理と清掃は行き届いていますか?			
1. とてもよい	6人		<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. とてもよい <input type="checkbox"/> 2. よい <input type="checkbox"/> 3. ふつう <input type="checkbox"/> 4. あまりよくない <input type="checkbox"/> 5. わるい <input type="checkbox"/> 6. 無回答
2. よい	15人		
3. ふつう	2人		
4. あまりよくない	人		
5. わるい	人		
6. 無回答	人		
計	23人		
(質問3) 当センターの利用者さんに対する職員の対応は適切だと思いますか?			
1. とてもよい	6人		<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. とてもよい <input type="checkbox"/> 2. よい <input type="checkbox"/> 3. ふつう <input type="checkbox"/> 4. あまりよくない <input type="checkbox"/> 5. わるい <input type="checkbox"/> 6. 無回答
2. よい	14人		
3. ふつう	3人		
4. あまりよくない	人		
5. わるい	人		
6. 無回答	人		
計	23人		
(質問4) 当センターの自閉症や発達障がいの人に対する支援の考え方をどう思いますか?			
1. とてもよい	12人		<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. とてもよい <input type="checkbox"/> 2. よい <input type="checkbox"/> 3. ふつう <input type="checkbox"/> 4. あまりよくない <input type="checkbox"/> 5. わるい <input type="checkbox"/> 6. 無回答
2. よい	9人		
3. ふつう	1人		
4. あまりよくない	1人		
5. わるい	人		
6. 無回答	人		
計	23人		
(質問5) 個別支援計画に係る懇談の内容に満足していますか?			
1. とても満足している	4人		<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. とても満足している <input type="checkbox"/> 2. 満足している <input type="checkbox"/> 3. ふつう <input type="checkbox"/> 4. あまり満足していない <input type="checkbox"/> 5. わるい <input type="checkbox"/> 6. 無回答
2. 満足している	12人		
3. ふつう	7人		
4. あまり満足していない	人		
5. わるい	人		
6. 無回答	人		
計	23人		



(質問10) センターに対するご意見ご要望がありましたらお書き下さい。

いつも親の話や本人の状態を教えてください。丁寧に対応してもらっていますまた本人がこれからどのようにしていくことが一番良い方向に向かえるかなど指導してもらっています。日々、これからもご指導宜しく願いいたします

担当者の異動で引継ぎ時の状態観察と対応についてプロセスを確立してほしい異動が多いのは理解しているし、引継ぎ方法についても認識しているが、その経過の対応が担当者(新)に委ねられている感じるので組織的に確実におこなわれて、その対応を保護者が理解できるような形にしてほしい

4 収支状況

様式

▽ 収支(ゆい) (千円)			
項目	H29計画	H29決算	差(決算-計画)
収入	310,492	311,125	633
指定管理業務収入	310,492	311,125	633
指定管理費	20,197	20,197	0
利用料金	18,675	18,771	96
その他	271,620	272,157	537
自主事業収入			0
支出	309,540	311,101	1,561
指定管理業務支出	309,540	311,101	1,561
自主事業支出			0
収入-支出	952	24	▲ 928
利益還元			0
法人税等			0
純利益	952	24	▲ 928

▽ 説明

収入においては、「指定管理費」が前年度に比べて2,711千円増額している。計画に対して、「利用料金」は96千円の増。「その他」の収入は537千円の増となっている。「その他」の収入には『自立支援給付費収入』が含まれており、増となった要因としては、今期は冬季におけるインフルエンザの影響をほぼ受けることなく終了したためである。但し、恒常的に「長期帰省」される利用者は今期も1名いる。(そのため延べ利用日数と、収入は必ずしも比例しない)。

支出に関しては、「指定管理業務支出」が計画より1,561千円多くなっている。これには「人件費支出」の増が影響しており、処遇改善に係る「一時金」の支払いが1,290千円含まれている。

また「修繕費支出」が当初想定200万円から300万円(補正済み)にUPしていることも特記事項である。今後の経年劣化が懸念されるところである。

○結果として、計画より928千円少ない24千円の純利益を計上している。補足情報として、経年劣化に備えて、(固定資産の減価償却累計額には届かないが)「減価償却積立金支出」を今年度も継続して行っている。

A	B	D
・自閉症者自立支援センター、自閉症・発達障害支援センターともにほぼ計画通りの収支となっており、安定的な運営が図られている。		

▽ 収支(おがる) (千円)			
項目	H29計画	H29決算	差(決算-計画)
収入	35,267	35,236	▲ 31
指定管理業務収入	35,267	35,236	▲ 31
指定管理費	34,884	34,885	1
利用料金	0	0	0
その他	383	351	▲ 32
自主事業収入			0
支出	34,887	35,497	610
指定管理業務支出	34,887	35,497	610
自主事業支出			0
収入-支出	380	▲ 261	▲ 641
利益還元			0
法人税等			0
純利益	380	▲ 261	▲ 641

▽ 説明

収入においては、今年度から「地域支援機能強化事業」の助成金が加わっている。「指定管理費(助成金含む)」が主たる財源で99%を占めているため、ほぼ計画通りとなっている。

支出に関しても、ほぼ計画通りの支出に収まってはいるが、今期は、嘱託職員とパート職員をそれぞれ1名増員して業務にあたっている。

○増員により、兼ねてより手狭だった事務所を改築しており、その改築に関連した「備品」の購入支出が支出を若干増加させた。また、来期の職員増に備えた支出(「人件費積立」)もあり、結果として、計画より収入は31千円の減、支出は610千円の増となり、261千円の純損失を計上することとなった。

＜確認項目＞ ※評価項目ではありません。		
▽ 安定経営能力の維持 ▼法人全体では黒字経営が続いており、ゆいとおがるの経営に万が一の危機が生じたとしても十分に助けられるだけの能力を有している。		適 不適 ・安定した運営を保持している。
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 ▼各条例の規定に則り、全て適切に対応するようにしている。		適 不適 ・各条例を順守し、適正に対応している。

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>当センターの使命は、いろいろなバージョンの「地域生活へ戻す」取り組みの推進や不適応行動を生じさせないための家庭生活等へのサポートである。この使命に向かって進むキーワードとして「最前線と最高峰をめざして」を掲げ、そのために「支援力を上げる」「組織力を高める」「人間力を磨く」という3つの観点からの取り組みを進めることとした…と先に述べた。</p> <p>さて、「地域に戻す」という使命に関しては、昨今の福祉を取り巻く状況もあり、思うように新規グループホームの建設が進んでいないが、送り出すためのスタンバイは常にしており、平成29年度は1名の通所利用者を親元を離れた地域での自立生活に送り出すことができた。また、家庭生活等へのサポートとして、小学校2年生男子を対象に、中一時支援事業を活用して、3週間に1回くらいのペースで療育的なプログラムによる支援を行い、家庭生活に般化できそうなヒントを見付ける取り組みを行った。ショートステイで一泊してみようというところまで支援環境を整えることができた。</p> <p>そして、地域を支えるという視点から、法人で隣接地を購入し、新生活介護事業を新設しよう計画している。在宅の方々を生活介護部門で受け入れる枠がない現状を打破すること、緊急ショートステイ事業の展開が地域への貢献につながると考えている。現在、設計を詰めている段階である。それにより、ゆいの生活介護部門の枠を空けることができ、在宅の方々をゆいで受け入れることが可能になる。</p> <p>3つの観点に関してであるが、「支援力を上げる」「組織力を高める」「人間力を磨く」については文中でも少々触れているので、触れることができなかった取り組みをいくつか説明しておきたい。</p> <p>「支援力を上げる」ひとつとして、現行の個別支援計画の書式と運用方法を見直し、平成29年度に新書式でスタートできるようになったことがある。また、「組織力を高める」取り組みとして、懇親会や動画作成、ギネス？チャレンジなど、平成29年度も元気の出る企画を多数行うことができた。そして「人間力を磨く」取り組みとして、利用者のアート作品を世に出す運動の進化を取り上げたい。缶バッジやマグネット、キーホルダーの販売や売り上げの還元は昨年度から継続して行ってきたが、平成29年度はパラリンミュージアムでゆいのアート作品を常設展示していただけることになったり、クリアファイルなどの他製品の企画開発を進めたりなど、展開がさらに広がっている。そして、ゆいバリューが策定され、平成30年度以降は、このゆいバリューに基づいて計画を立て推進していこうと思っている。</p> <p>ゆいにおいては、医療・栄養・事務・地域等、利用者の方々を支える関係スタッフとの協働が日常的に行われる風土がより育っている。通院や服薬に関する相談だったり、体重コントロールや排便に関する食事相談だったり、金銭処理や設備に関する相談だったり、地域の関係スタッフとのケースカンファレンスだったり、それぞれの専門性をリスペクトした横断的な協働が活発に行われている。スタッフの日頃の努力と奮闘に敬意を表したい。</p>	<p>ゆいの使命や職員の声を踏まえ、平成30年度の事業計画の骨子を最前線と最高峰をめざすメインの事業、そしてそれを支えていくための具体的な取り組みを平成29年度に策定した「ゆいバリュー（ゆいとして大切にしたい視点）」を基に整理した。</p> <p>最前線と最高峰をめざして ◇地域に戻る取り組み @5名の人たちが地域に戻る年 →らいふのメンバー補充と （仮称）中沼ホームの開設を年度内に実施 →新たな入所利用者の受け入れを随時実施 @よもぎの体験利用 →移行シミュレーションに基づいた計画的利用 ◇バックアップ施設としての役割 @グループホーム支援体制維持の5年見通しを作成 ◇地域の方々へのサポート @ショートステイによる療育支援の展開第4弾 …おがるとのコラボ&職場内PR @生活介護事業所東区新設についての計画具体化 ◇地域への貢献 @支援者実習の受け入れ @何をすることがゆいにとって無理なくできる地域貢献なのかを絞り込む作業</p> <p>ゆいバリューに基づく実践 ◇「証」 根拠に基づくチャレンジをする ◇「和」 チームとして一流をめざす ◇「快」 きれいなゆいを常にめざす ◇「続」 最強の支援力はコツコツである ◇「安」 やわらかくおだやかな雰囲気のある職場でありたい ◇「暖」 私たちの好感度が上がれば、利用者さんの好感度も上がる</p> <p>@東地域書式との個別支援計画マッチングの可能性検討 @全員が何らかの研修に @ゆい塾の効果的活用 @総合職研修も検討 @チーム支援によるチームカアップと チーム交流による全体への還元 @いつぐらいに何をするかを明確化したバディシステム @サプリーダーの業務をより具体化 @修繕や整備予算の確保と、 破損や修繕の必要性チェックのシステム化 @職区分離を進めるための支援プランづくり @ゆいバリューを確認する場を年に1回は持つこと @人権意識の向上に関する取り組みを継続 @ヒヤリハットからディスカバリーへ @誤薬防止への強い意識 @年3回程程度の余暇企画 +メンタルヘルスチェックの定期的実施 @夜間避難や水防対策の練習に重点 @伺書等の書き方のレクチャー @アートで工賃を還元できることをめざした取り組みを深化・発展 @社会人（職業人）としての マナーアップについての取り組みを継続</p>

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>自閉症者自立支援センターは、強い行動障がいをも有する利用者に対して、地域移行も含め、専門的かつ模範的な取組を行っており、高く評価できる。平成29年度においては実際に1名の地域移行を実現しており、平成30年度以降には新たな地域移行も計画している。また、スタッフの負担を減らすだけでなく、新たな人材発掘にもつながることも考慮して、パート職員の増員を図ったことは高く評価できる。</p> <p>自閉症・発達障害支援センターは、研修等を通じ、自閉症・発達障がいに関する普及・啓発活動を積極的に行うなど、高く評価できる。</p>	<p>全体としては利用率は十分であるが、短期入所については利用率が低い状況が続いていることから、利用率の向上の方策を検討していただきたい。</p> <p>また、利用者へのアンケートについて、施設の総合満足度及び職員の接遇についての項目は仕様書により質問及び回答選択肢が定められているので、仕様書に記載されている文言で実施すること。</p>